



■活動日：2018年2月24日（土） 10：00～14：30

■参加者：チーム神於山 正会員 6名

■活動内容

- 今回は、フクロウの営巣確認後、雨水の収集方法や、竹を楽に多目的広場へ運ぶ方法などについて、皆で考える予定でしたが、岡森さんから、シイタケの栽培地の上の斜面を、イノシシが掘り返し、樅木が埋まりかけていたので移動したとの報告があったことから、まずその確認から始めました。
- イノシシは、山芋を求めて掘ったようで、シイタケの栽培地から尾根道側までの斜面のあちこちに、幅1m長さ1.5～2mの大きな穴が数個掘られていました。
- 多量の雨が降ると、土砂がシイタケの栽培地に流れ込みそうですから、樅木の移動を考えないといけないかも。
- フクロウは、残念ながらどの巣箱にも営巣した気配はありませんでしたが、保全くらぶの炭焼きチームが、昨年シャープの森の間伐材を使って焼いた炭を持って来られ、暫し炭焼き話に花が咲きました。
- 午後は、活動できるメンバーが3人になりましたが、貯水槽をしっかりと据え直し、倉庫や物置や薪置き場の屋根など、既存設備を利用した取水の準備をしました。
- 香遠さんがドラム缶を手配してくれましたので、雨水を貯める入れ物の目途も着いて、一步前進です。活動頂いた6名の皆さん、お疲れ様でした。

■イノシシ大暴れ。 シイタケの栽培地から上の尾根道までの間が穴だらけでした。



発見者の岡森さんと直近の斜面の堀穴。



上がってみるとこんな感じ。



他にも、尾根道までの間に穴ぼこ ポコポコ。



- イノシシは“山芋を見つけたので、他にも無いかと掘ってみたら、結構ありそうなので思い切り掘りまくってみた！”という感じで掘っています。
- 香遠さんから“そういえばその辺りに山芋を植えた覚えがある。”という爆弾発言があり、一気に信憑性が増しましたが、それは兎も角、すべての穴が根だらけなので、何か食べ物を探したことは間違いなさそうです。
- それにしても、パワーの凄さには驚きです。



■植えたクヌギやコナラが炭になって帰って来ました。 保全くらぶの炭焼きチームは、菊炭が目標かも。

<「菊炭」についてのウィキペディアの纏蓄>

- 菊炭（きくすみ）は、木口断面の中心から外側に向かって放射状の細かい割れ目が入り、切り口が菊の花のような模様になる木炭。
- クヌギ、コナラなど櫟・樫類の樹木を使用し、断面が美しい花模様となるよう条件を整えて製炭する。
- 火つきがよく、火力も強い炭で、香りがよく、燃えた後も形が崩れず真っ白な灰が残って美しいことから、室町時代から茶の湯炭の高級品として愛用されてきた。茶の湯炭としては、断面が真円に近く、花模様に見える割れ目が細かく均一であり、**薄い樹皮が密着し、崩れにくい**が**硬すぎないものが良品**とされる。
- 室内消臭や観賞用のインテリア小物としても利用される。



菊炭のいわれで、右の方が良品です。 樹皮の付き方が1/2で残念！ 自前の炭です。嬉しいですね。



育てたクヌギとコナラの炭を前に一枚。感無量です。

- 里山とは、人と自然が共生している森のことですが、薪や炭が人の生活から姿を消すにつれ、忘れ去られようとしています。
- 神於山シャープの森づくりの目的は、里山の自然の保全と再生です。
- 里山の代表的な木のクヌギ・コナラ・ヤマザクラを植えたのも、この目的に沿ったもので、育てたクヌギやコナラが炭になって帰ってきたのは嬉しい話です。
- 今年も11月に間伐をしますが、今年間伐したクヌギやコナラは、私達の手で炭にしたいですね。



■午後の部の活動 貯水槽の設置場所を整備し、雨樋を付ければ取水できる既存の建物の屋根を掃除しました。



貯水槽の設置場所の基礎を固め、杭を打って固定しました。



倉庫前の物置と薪置き場の波板屋根の掃除。

- 倉庫の屋根は、既に雨樋を改造してパール缶に引き込み、雨水の取水装置にしています。
 - 次は、倉庫の前の物置スペースと薪置き場の波板屋根に雨樋を付け、取水装置に改造します。
 - 多目的広場に降った雨水抜きの暗渠の塩ビ管も、下にドラム缶を置けば、立派な取水装置になります。
- ドラム缶の容量は約200ℓですから、上手く行けば、暗渠前の3本のミカンの木の水は、それだけで賄えるかもしれません。

